

## 株主メモ

事業年度	12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領日	11月30日
株主確定日	
中間配当金受領日	中間配当を行う場合は、5月31日
株主確定日	
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.krs.co.jp/">http://www.krs.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。

## 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様へ

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行各支店にでもお取次ぎいたします。

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)	特別口座の 口座管理 機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿 管理人	(手続書類のご請求方法) 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufig.jp/daikou/">http://www.tr.mufig.jp/daikou/</a>

(※) 特別口座に口座をお持ちの株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式は、お選びいただけません。

## 株主様優待制度のご案内



11月30日現在の株主名簿に記録された株主様に対し、以下の基準により年1回、ジェフグルメカード（全国共通お食事券）をご送付いたします。

### (1) 贈呈基準

ご所有株式数	ご優待内容
100株以上 5,000株未満	3,000円相当のジェフグルメカード
5,000株以上 10,000株未満	5,000円相当のジェフグルメカード
10,000株以上	10,000円相当のジェフグルメカード

### (2) 送付時期

2月開催の定時株主総会の決議通知に同封してご送付いたします。

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 9369

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

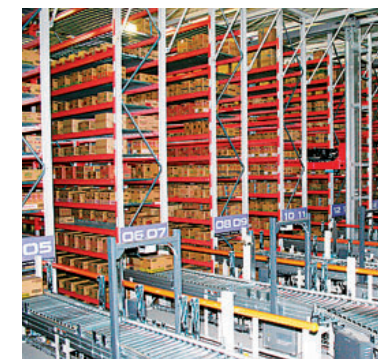
●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



**KRS 株式会社キューソー流通システム** (証券コード: 9369)

〒182-0026 東京都調布市小島町一丁目32番地2 京王調布小島町ビル  
TEL 042-441-0711 (代表) URL <http://www.krs.co.jp/>



**KRS**  
株式会社キューソー流通システム

**第45期中間(第2四半期)報告書**

2009年12月1日～2010年5月31日





**社 是**  
「楽業借悦」  
らくぎょうかいえつ：  
業を楽しみ悦びを  
借（ともに）する

**社 訓**  
道義を重んずること  
創意工夫に努めること  
親を大切にすること

**グループ経営理念**  
わたしたちは  
人と食を笑顔で結び  
いつも信頼される  
企業グループです



代表取締役社長

ハ、ハ、博'

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第45期中間期（2009年12月1日～2010年5月31日）の事業の概況と決算のご報告を申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部において景気回復の兆しが見られるものの、依然として雇用情勢や個人消費に力強さは感じられず、引き続き予断を許さない状況であります。食品物流業界においても得意先の物流費抑制、および物流業者間の価格競争による受託料金の伸び悩みに加え、「食の安全・安心」に応える物流品質の向上への投資などにより、厳しい経営環境で推移いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高661億円、営業利益7億円、経常利益6億円、四半期純利益17百万円と前年同期比で減収増益という結果になりました。営業収益は、景気悪化による共同物流の物量減少と専用物流の受託料金が伸び悩み、既存取引の売上高が減収いたしました。利益面につきましては、運送機能の再構築に向けた合理化改善策の実行と、倉庫内業務の標準化を中心とした保管機能の再構築が進捗いたしました。

第45期より、物流品質の向上と機能の強化で新たな食品物流の創造をめざした中期経営計画（2010年～2012年）をスタートさせております。この中期経営計画は当社グループの構造改革をおこなう中期と位置付けをしております。社会の要求は「量」から「質」への転換と向上が問われています。従って、当社グループも従来の延長線上的発想から抜け出し、当社グループが将来に亘って存在し発展していく為の具体的な施策の実行に取り組んでおります。5月には、業界初のプラス25度からマイナス20度まで荷量に応じて温度帯別のスペースを変更できるフレキシブル配送車「FCD3+1」の開発を発表いたしました。地方を中心とする共同物流の効率化をおこなうとともに、得意先に向けた営業提案を展開してまいります。本年度後半は、景気および燃料調達単価の動向に不透明な部分が残されており、引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。このような事業環境のもと、当社グループは「物流品質の向上」「収益体質の改善」「成長分野へのシフト」の実践を通じて、経営目標の達成に向けての道筋をつける一年にしてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## TOPICS

### 関西地区に物流拠点を開設

関西地区において更なる物流サービスの充実を実現する為、兵庫県神戸市東灘区に「神戸第二営業所」を開設いたしました。当営業所は関西地区の常温拠点配置の見直しにより、尼崎営業所（兵庫県尼崎市）の移転や、近隣外部倉庫集約をおこない開設することといたしました。また、収容能力を増強させ新たな事業拡大に寄与する営業所となっております。物流ネットワークでは、配送・輸送拠点として交通アクセスに優れた立地条件を備え、近隣の神戸営業所（兵庫県神戸市東灘区）との車両の有効活用など効率的な物流ネットワークを構築することができます。

今後もお客様にパートナーとして選ばれる最適な物流サービスの提供に取り組んでまいります。



## CSR活動

近年、大地震、異常気象による天災、さらには新型インフルエンザの流行などが報じられております。当社グループでは、事業の継続を妨げる災害の発生に備え、従業員の安否情報システムや遠隔地会議システムの導入、東西ホストコンピューター間のバックアップ体制の構築と復旧オペレーション研修、企業市民として緊急時の人命救助ができるようにAEDの使用法を含めた普通救命講習の受講奨励などの取り組みを実施しています。今後も緊急時に迅速な対応ができるよう充実したBCP（事業継続計画）の策定に努めてまいります。

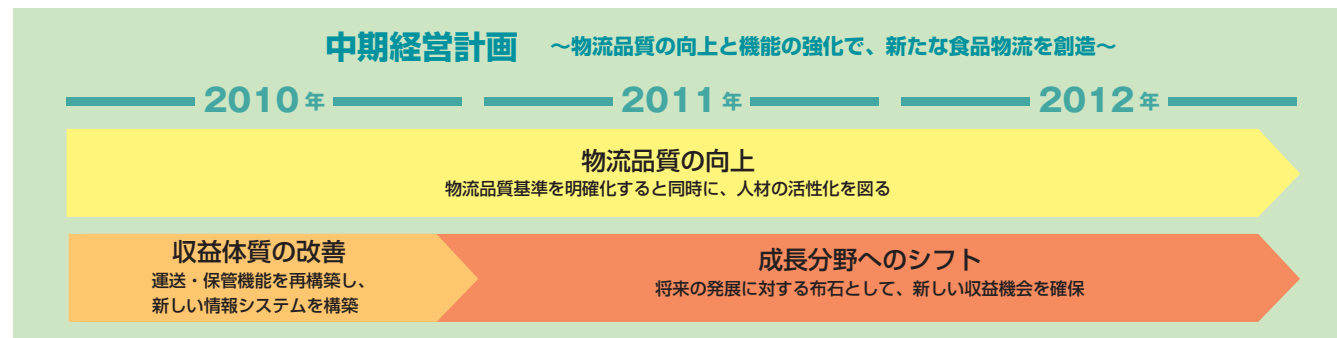




# 新たな食品物流を創造する 中期経営計画がスタートしています。



当社グループは、安全・安心を前提とした物流品質優先を実践し、機能の強化と新たな価値の創造により、食品物流のリーディングカンパニーとして存在感のある企業グループをめざしてまいります。



当社グループを取り巻く環境は、得意先企業の物流費抑制および環境負荷軽減へのニーズの高まり、少子・高齢化による加工食品市場の縮小、都市部と地方の格差の広がり、物流業者間の価格競争による受託料金の伸び悩み等、従来の様な量的経済成長は望めず、新しい時代に向けた経営環境は、量から質への転換が求められています。中期3ヵ年における初年度である2010年度は、『質』を重視する経営をおこなってまいります。



### 物流品質の「質」

物流品質向上の為のグループ協力体制の強化

### 設備の「質」

老朽化設備の補修の促進と既存設備やシステムの有効活用による投資の効率化

### 取引内容の「質」

得意先の採算管理制度の定着による適正なサービス・適正な利益の実現

### 人材の「質」

専門知識・資格を備えた人材の育成、研修体系の整備

具体的な行動計画としての戦略と施策を実行し、2010年度の数値目標を売上高1,340億円、営業利益15億円、経常利益14億円、当期純利益90百万円としております。引き続き継続的な企業価値の向上と食品物流企業ナンバーワンとなるべく努力してまいり所存です。今後とも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

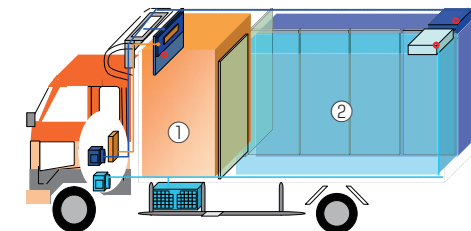
## 付加価値を生む新しい食品流通への挑戦

— 物流品質の向上と機能の強化で新たな食品流通の創造をめざした取り組み —  
 プラス25度からマイナス20度まで荷量に応じて柔軟に温度帯別スペースを変更できる  
 業界初、縦横着脱自在の間仕切りを装備した車両を開発・導入しました。



※特許出願中

お客様から依頼された商品を、そのままの品位でお届け先にお渡しすることが食品物流の使命です。永年の知識と経験を基に配送機能を充実させ、他社にない独自のサービスを提供してまいります。



切替え可能温度帯

①	②	③
加温 常温 チルド 冷凍	常温 チルド 冷凍	常温 チルド 冷凍

### フレキシブル車両『FCD3+1』の導入

フレキシブル車両『FCD3+1』は、労働人口の減少など当社を取り巻く環境が厳しい状況で推移している中で、小口品取扱いにおける機能強化と効率化を図るために、車体メーカーと共同で開発、導入した車両です。中期経営計画では、運送機能の再構築に位置付け、当社グループが将来に亘って存在し発展していく為の具体的な施策のひとつとして考えております。

同車両は、縦横着脱可能な間仕切りの開発でプラス25度からマイナス20度まで温度の異なる商品を荷量および温度帯ニーズに合わせ最大3温度帯まで1台の車両で効率良く運べることを可能としました。

今後も当社グループは同車両を用いた得意先への営業提案を強化し、より質の高い物流サービスに努めてまいります。



## 全般的な概要（当第2四半期連結累計期間）

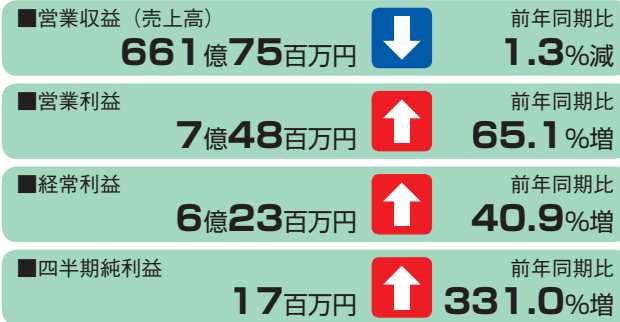
当第2四半期連結累計期間におきましては、個人消費の冷え込みや、物流費抑制および価格競争の激化に加え燃料調達単価の上昇など厳しい経営環境の中、合理化改善を推し進め減収増益となりました。

### 営業収益（売上高）

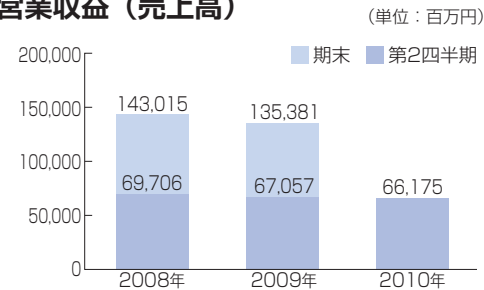
共同物流の在庫・出荷物量が減少したことに加え、コンビニエンスストアや量販店等の流通業を主な得意先とする専用物流の受託料金も伸び悩み、既存取引の売上高が減収となりました。

### 営業利益

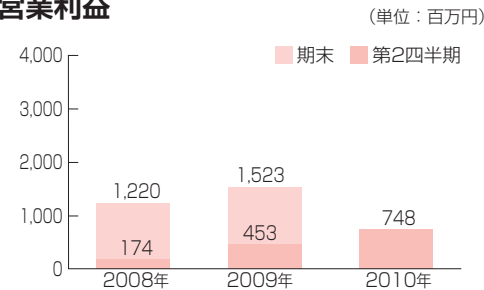
共同物流や専用物流の既存取引の減収による採算の悪化や燃料調達単価の上昇があったものの、保管の効率化や運送業務などの合理化改善が進捗し増益となりました。



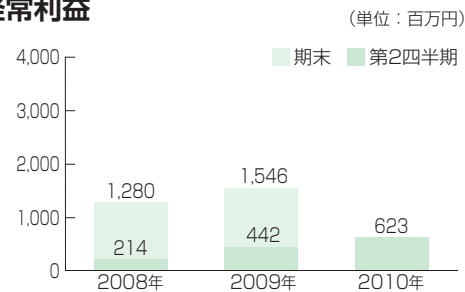
### ■ 営業収益（売上高）



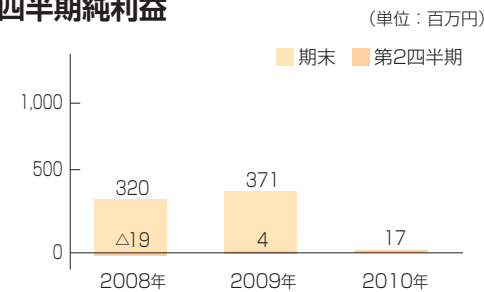
### ■ 営業利益



### ■ 経常利益



### ■ 四半期純利益

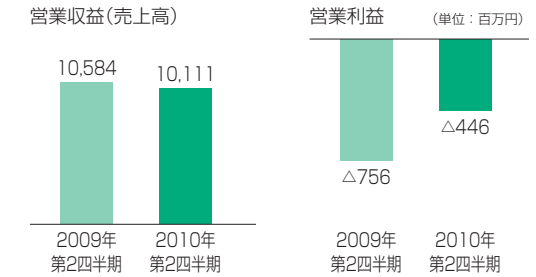


## セグメント別の概況（当第2四半期連結累計期間）

### 営業収益（売上高） 構成比



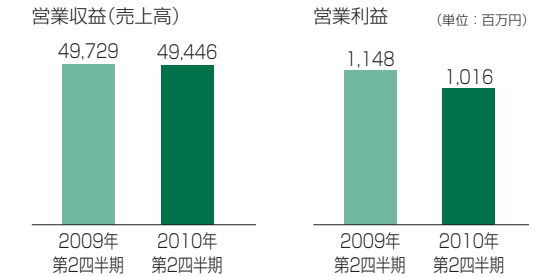
### 倉庫事業



倉庫事業収益は共同物流の在庫・出荷物量などが減少し既存取引の売上高が減収となりました。

一方、利益面は減収の影響があったものの、保管の効率化や業務の標準化など合理化改善が進捗し増益となりました。

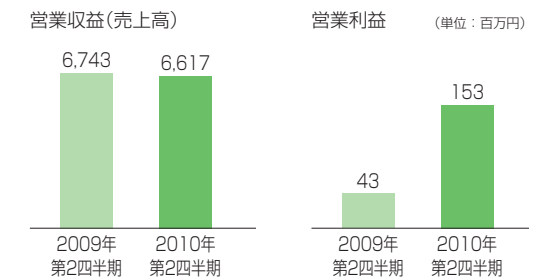
### 運送事業



運送事業収益は既存取引の共同物流や専用物流の売上高が減収となりました。

利益面は運送業務の合理化改善が進捗したものの、減収による採算悪化や燃料調達単価が上昇し減益となりました。

### その他事業



その他事業収益は、燃料の販売数量などが減少した影響で減収となりました。一方、利益面は商品販売の売上増加が寄与し増益となりました。

## 連結決算の概況

### 四半期連結貸借対照表(要旨)

科 目	当第2四半期連結会計期間末	前連結会計年度
	2010年5月31日現在	2009年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	19,461	19,520
固定資産	35,343	36,094
有形固定資産	26,610	26,984
無形固定資産	321	381
投資その他の資産	8,410	8,728
資産合計	54,804	55,615
<b>負債の部</b>		
流動負債	22,344	22,735
固定負債	5,315	5,732
負債合計	27,659	28,468
<b>純資産の部</b>		
株主資本	24,086	24,169
資本金	4,063	4,063
資本剰余金	4,209	4,209
利益剰余金	15,824	15,908
自己株式	△ 11	△ 11
評価・換算差額等	12	43
その他有価証券評価差額金	23	46
繰延ヘッジ損益	-	-
為替換算調整勘定	△ 10	△ 2
少数株主持分	3,046	2,934
純資産合計	27,145	27,147
負債・純資産合計	54,804	55,615

#### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末に比べ2億33百万円増加し、22億10百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、21億54百万円(前年同期比2億68百万円の収入増加)となりました。これは主に、法人税等の支払による減少はありましたが、税引等調整前四半期純利益、減価償却費および売上債権の減少によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は13億44百万円(前年同期比1億12百万円の支出増加)となりました。これは主に、定期預金の払出による収入はありましたが、有形固定資産の取得による支出および貸付けによる支出によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は5億71百万円(前年同期比3億84百万円の支出増加)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出、リース債務の返済による支出および配当金の支払によるものであります。

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	当第2四半期連結累計期間
	2009年12月1日~2010年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,154
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,344
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 571
現金及び現金同等物の換算差額	△ 5
現金及び現金同等物の増減額	233
現金及び現金同等物の期首残高	1,977
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,210

### 四半期連結損益計算書(要旨)

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増 減
	(自 2009年12月1日 至 2009年5月31日)	(自 2009年12月1日 至 2010年5月31日)	
営業収益	67,057	66,175	△ 882
営業原価	64,811	63,612	△ 1,198
営業総利益	2,246	2,562	316
販売費及び一般管理費	1,792	1,813	21
営業利益	453	748	295
営業外収益	100	130	30
営業外費用	111	255	144
経常利益	442	623	181
特別利益	34	59	25
特別損失	34	39	5
税金等調整前四半期純利益	441	643	201
法人税、住民税及び事業税	479	421	△ 58
法人税等調整額	△ 168	65	233
少数株主利益	126	137	11
四半期純利益	4	17	13

### 四半期連結株主資本等変動計算書

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2009年11月30日 残高	4,063	4,209	15,908	△ 11	24,169	46	0	△ 2	43	2,934	27,147
四半期連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当	-	-	△ 101	-	△ 101	-	-	-	-	-	△ 101
四半期純利益	-	-	17	-	17	-	-	-	-	-	17
自己株式の取得	-	-	-	△ 0	△ 0	-	-	-	-	-	△ 0
株主資本以外の項目の四半期連結会計期間中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	△ 22	0	△ 7	△ 30	112	81
四半期連結会計期間中の変動額合計	-	-	△ 83	△ 0	△ 83	△ 22	0	△ 7	△ 30	112	△ 2
2010年5月31日 残高	4,063	4,209	15,824	△ 11	24,086	23	0	△ 10	12	3,046	27,145



## 単体決算の概況

### 四半期貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期会計期間末	前会計年度
	2010年5月31日現在	2009年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	15,095	15,341
固定資産	25,540	25,742
有形固定資産	17,393	17,487
無形固定資産	271	335
投資その他の資産	7,875	7,920
資産合計	40,636	41,084
<b>負債の部</b>		
流動負債	16,581	16,789
固定負債	2,650	2,892
負債合計	19,232	19,681
<b>純資産の部</b>		
株主資本	21,380	21,356
資本金	4,063	4,063
資本剰余金	4,209	4,209
利益剰余金	13,119	13,095
自己株式	△ 11	△ 11
評価・換算差額等	22	47
その他有価証券評価差額金	22	47
純資産合計	21,403	21,403
負債・純資産合計	40,636	41,084

### 四半期株主資本等変動計算書

当第2四半期累計期間(自 2009年12月1日 至 2010年5月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計	
	資 本 金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	利益準備金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金						利益剰余金合計
2009年11月30日 残高	4,063	4,209	187	5	12,587	314	13,095	△ 11	21,356	47	47	21,403
四半期会計期間中の変動額												
剰余金の配当	-	-	-	-	-	△ 101	△ 101	-	△ 101	-	-	△ 101
四半期純利益	-	-	-	-	-	125	125	-	125	-	-	125
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	△ 0	△ 0	-	-	△ 0
株主資本以外の項目(四半期会計期間中の変動額(純額))	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 24	△ 24	△ 24
四半期会計期間中の変動額合計	0	0	0	0	0	23	23	△ 0	23	△ 24	△ 24	△ 0
2010年5月31日 残高	4,063	4,209	187	5	12,587	338	13,119	△ 11	21,380	22	22	21,403

### 四半期損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間	前会計年度
	(自 2009年12月1日 至 2009年5月31日)	(自 2009年12月1日 至 2010年5月31日)	(自 2009年12月1日 至 2009年11月30日)
営業収益	43,717	42,997	87,508
営業原価	43,001	41,927	85,399
営業総利益	715	1,069	2,108
販売費及び一般管理費	925	926	1,746
営業利益又は営業損失(△)	△ 209	143	362
営業外収益	127	149	229
営業外費用	78	62	145
経常利益又は経常損失(△)	△ 160	229	446
特別利益	15	40	15
特別損失	15	23	32
税引前四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	△ 160	246	430
法人税、住民税及び事業税	25	33	51
法人税等調整額	△ 65	87	178
四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	△ 120	125	199

## 会社データ

### 会社の概要 (2010年5月31日現在)

商 号：株式会社キユーソー流通システム  
 創 立：1966年(昭和41年)2月1日  
 代 表 者：代表取締役社長 八木 博  
 本 社：東京都調布市小島町一丁目32番地2  
 京王調布小島町ビル  
 資 本 金：40億6,311万円  
 従 業 員 数：9,427名(連結ベース・臨時雇用者数含む)  
 事 業 内 容：
 

- 倉庫業
- 各種瓶缶詰類その他一般物品の包装、荷造ならびに配送等の引受業務
- 第一種利用運送事業
- 運送取次事業
- 貨物自動車運送事業
- 通関業
- 自動車および物流に係る車輛機器、備品の販売ならびにリース業
- 自動車分解整備業
- 工業用、車輛用各種燃料、油脂の販売
- 損害保険代理業
- 物流情報の販売業
- 生鮮食品、保存食品、加工食品等の各種食料品および日用雑貨品の販売
- 不動産賃貸業
- 労働者派遣事業
- 前各号に付帯する一切の業務

### 取締役および監査役 (2010年5月31日現在)

代表取締役社長	八木 博	博二
取締役	佐々木 健	潔
取締役	山根 本	潔
取締役	山本 野	修
取締役	小角 至	修
取締役	角 一 瀬	貢
取締役	井元 治	郎
取締役	山本 純	守
取締役	岡本 直	樹
取締役	井上 伸	雄
取締役	藤田 正	美
常務取締役	藤村 憲	一
常務取締役	松永 元	美
監査役	平 康	夫
監査役	及川 雅	晴
監査役	長 尾 隆	史

(注) 1. 井上伸雄氏、藤田正美氏は、社外取締役であります。  
 2. 平康夫氏、及川雅晴氏、長尾隆史氏は、社外監査役であります。

## KRSグループ

- ワイエムキユーソー株式会社(貨物運送事業)
- 株式会社エスワイプロモーション(貨物運送事業、海上運送事業、倉庫業、物品販売業、通関業)
- キユーソーサービス株式会社(自動車整備業、施設管理請負業、物品販売業、保険代理店業)
- 株式会社キユーソーエルプラン(荷役請負業)
- 株式会社エルプラン東日本(荷役請負業)
- 株式会社エルプラン関東(荷役請負業)
- 株式会社エルプラン東海(荷役請負業)
- 株式会社エルプラン西日本(荷役請負業)
- 株式会社エルプラン九州(荷役請負業)
- ケイ物流株式会社(大手CVSの物流センターオペレーション業務および運送事業)
- 株式会社キユーピー流通システム(事務代行業、情報開発請負業)
- エム物流株式会社(大手CVSの物流センターオペレーション業務および運送事業、店舗事業)
- 株式会社サンエー物流(大手スーパーの首都圏物流センターオペレーション業務および運送事業)
- 株式会社サンファミリー(大手CVSの物流センターオペレーション業務および運送事業、店舗事業)
- 大阪サンエー物流株式会社(大手CVSの物流センターオペレーション業務および運送事業、店舗事業)
- フィニシステム株式会社(大手スーパーの関西圏物流センターオペレーション業務および運送事業)
- 上海丘寿儲運有限公司(上海市内を中心とした保管配送事業、タンクローリー事業)
- フードクオリティエロジスティクス株式会社(専用物流業務受託会社)

### 株式の状況 (2010年5月31日現在)

発行可能株式総数 36,600,000株  
 発行済株式の総数 12,677,900株  
 株 主 数 14,118名

### 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
キユーピー株式会社	5,634 千株	44.47 %
株式会社中島重商店	737	5.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	428	3.39
東洋水産株式会社	308	2.44
キユーソー持株会	277	2.19
キユーソー流通システムグループ従業員持株会	241	1.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	173	1.37
シービーエヌワイエフエイインターナショナル	160	1.26
キャップパリュール・ポートフォリオ	145	1.15
株式会社三井住友銀行	117	0.92

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は自己株式(8,367株)を控除して計算しております。